

女性パイロット誕生も間近

宗城大学

宗城大学（熊本市）の工学部宇宙航空システム工学科の航空操縦学専攻は、質の高いパイロット養成に定評があり、毎年、航空業界に多くの優秀な卒業生を送り出し続けている。

同専攻では、熊本空港に直結した「空港キャンパス」を利用して国内で一貫した教育訓練を行っている。セスナ

172を11機、双発機のバロンを3機配置しており、充実した設備が整えられている。



現在4年次の女子学生3人が卒業に向けて訓練を重ねている

また、パイロットと聞くと男性の職業というイメージを持たれがちだが、同大では女性パイロットの志願者も増えているという。

女子学生は現在、同学科でも1年次三人、3年次二人、

4年次三人の計八人が在籍中。意欲的な人材が揃い、日々の学修や訓練は男女の区別なく行われている。

女子学生のうちの一人は「小さい頃から飛行機に乗る機会が多く、航空業界に興味を抱いていました。業務委託などをせずに一貫して国内で教育を行う唯一の大学で、面倒見の良さが魅力でした。自分が就職したいエアライン出身の教官がいることも動機の一つです」と、同大への志願動機を明るく語った。

実際に学生を指導している教官は「男性と比較して身体が小柄などといったハンディキャップとなる部分はありませんが、それに負けない力強さを感じています」と、期待を込める。

同大は11月6日、日本トランスオーシャン航空株式会社（JTA、本社・那覇市）との間で、パイロット養成に関する協定を取り交わした。ほかにも昨年10月には琉球エアコミュニケーション株式会社（RAC、本社・同）、日本航空株式会社（JAL、本社・品川区）と包括的な協定やパイロット養成に関する協定を締結している。それ以前にも平成23年にスカイマーク株式会社（本社東京・大田区）、25年には株式会社

AIRDO（本社・札幌市）、26年に株式会社フジドリームエアラインズ（FDA、本社・静岡市）、日本エアコミュニケーション株式会社（本社鹿児島・霧島市）、そして29年に Peach Aviation 株式会社（本社大阪・泉南郡田尻町）など、全国各地の企業との連携を結び、指導力を高め続けている。

パイロットの育成において大いに存在感を発揮し続けている宗城大の指導力から目が離せない。